

# センター通信 第261号

2010年3月2日発行

名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro  
461-0004名古屋市東区葵一丁目26-10ユニール新栄301号  
郵便振替 00840-8-40765 [名古屋エスペラントセンター]  
<http://homepage2.nifty.com/nagoja-esperanto/>



## Partoprenantoj en Zamehofa Festo 09

2010年度NEC維持員総会のご案内 .....	2	iPhoneとエスペラント (山田義) .....	8
Zamehofa Festo 09 (猪飼吉計) .....	3	面白いサイト (Gao Mings).....	10
辞書はとにかく引きやすく! (森田明) ...	4	ハイチのエスペランティストを支援するには (猪飼吉計) .....	10
Mia opinio pri Esperanto-Movado (Han-Yi)...	5	編集後記.....	10
La Sonorilo de Nagasaki .....	6		
第59回東海エスペラント大会のご案内.....	7		

## 2010年度名古屋エスペラントセンター維持員総会のご案内

維持員のみなさまへ

2010年度のセンター維持員総会を開きますのでご出席ください

日 時 2010年3月22日(月) 午後3時より

場 所 名古屋エスペラントセンター (名古屋市東区葵一丁目26-10 ユニープル新栄301号)

議 題 前年度の活動などの報告と今年度の活動などの計画

その他

名古屋エスペラントセンターでは、毎月委員会を開きセンターの維持、活動に取り組んでいます。その規約第8条に「センター維持員総会」は全ての維持員により構成される「センター」の最高機関である、と明記しています。センターにとって大切な議決機関である維持員紹介にご出席ください。

名古屋エスペラントセンター委員長 山口真一

名古屋エスペラントセンターは、地下鉄「新栄町」下車、2番出口から錦通を東へ徒歩3分のビル「ユニープル新栄」の3階にあります。喫茶店「赤トンボ」の左となりが3階への入り口です。

センターではエスペラントの雑誌や機関誌を長年の号を製本し保管しています。Fonto誌は1980年から2006年まで発行された文芸誌です。Fonto誌を全巻を揃える準備をしています。伊藤俊彦さんの寄贈もありましたがなお欠号があり、12さつを補うためにブラジルの発行もとへ問い合わせたところ Gersi Alfredo Baysさんは快く無料で送ってくれました。

Nagoja Esperanto-Centro kolektas gazetojn aŭ organojn en bindita libroformo. Fonto estas beletra gazeto (1980-2006). Petate de ni la eldoninto Gersi Alfredo Bays donace kompletigis nian mankon: 12 numerojn, Ni dankas lin.



Libroteko Tokio の東海林敬子さんが出版物を語る

## Zamehofa Festo 09

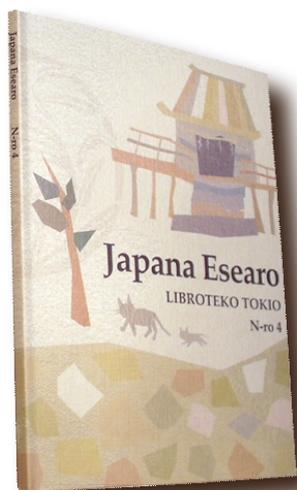
2009年の12月20日午後2時から、センター主催のザメンホフ祭2009 が名古屋国際センター内で開かれた。会長の山口真一の開会挨拶の後、メインゲストの東海林敬子さんに、2009年小坂賞受賞の理由となった出版活動及び地域運動について、Cele al poresperanta eldonado kaj loka aktivado と題してエスペラントにて語っていただいた。平和活動として写真集『広島・長崎一原子爆弾の記録』のエスペラント版を出したのが出版活動の契機となったこと、西日暮里エスペラントクルーボの講習会を行うために自宅に地下階を作ったことなどが、平明なエスペラントでの語り口で紹介された。また、出席者全員に、最新刊のJapana Esearo n-ro 4「日本人の随筆集 第4集」【写真】が無償で配布された。

プログラム後半は、世界大会の報告とザメンホフ著作の朗読であった。大会報告は猪飼吉計が、持参した一輪車が会場内で盗難にあったことを語り、また、山田義と前田可一がスライドを見せながらさまざまなコメントをした。朗読は、山口真一が Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia から、山田が Preĝo sub la Verda Stardardoを、猪飼はエスペラント訳の「創世記」を語るの時間を関係で取りやめ、アコルディーナで賛美歌264番を演奏した。参加人数は20名【写真は表紙】。

ザメンホフ祭が終わって、有志で座座という居酒屋にて懇親会が行われた。参加者は8名。磯部晶策さんも見え、話に花が咲いた。(猪飼吉計)



講師の東海林敬子さんが Libroteko Tokio の出版物を手に講演した



## 辞書はとにかく引きやすく！

森田 明

先日、名駅前のジュンク堂で三宅史平編「エスペラント小辞典」を見つけました。奥付には、昭和40（1965）年第1版発行、平成15年第43版発行とあります。商業出版物として半世紀近くの試練に耐えているのは、継続してそれだけの支持をうけている証拠でしょう。

昭和39（1964）年に貫名美隆・宮本正男著「改訂・新選エス和辞典」がJEIから出ました。前身の岡本好次著「新撰エス和辞典」を徹底的に書き改めた快挙と讃えられましたが、その翌年、「第50回エスペラント世界大会」の東京開催にあわせるかのように大学書林が出した「三宅小辞典」に対し、宮本氏は激怒しました。「商業主義にたぶらかされて、エスペラントの精神を売った辞書だ」と。

ここでいう「エスペラントの精神」とは、辞書における見出し語の配列法という、狭い意味で理解しておきます。伝統的な「エスペラントー各国語」辞書は語根中心主義を貫きます。語根を組み合わせて語彙を自由にふくらますのはエスペラントの優れた特性。合成語は一々見出し語として記載しなくてすみ、その分スペースが空くので、ページ数の節約になります。当然のことながら、初学者がkunvenoという未知の単語を「新選エス和」で探しても、すぐには見つかりません。kunは前置詞由来の接頭辞、だから主体は語根のven-にある。venoはveniの名詞形、以上のことがわかった上で、二つの概念を頭の中で組み合わせ、やっと「会合、つどい」という意味にたどりつきます。あえて困難な回り道をさせることが、学習者への愛のムチとなる、“合成語をもとの語根に戻し、再構成する能力を養う”ことこそが、エスペラント学習の早道、それには語根中心の配列法にまさるものはない、という主張がここにあります。

三宅氏の基本的な態度はその逆。学習の初期から分析癖がつくのは、言語感覚から自由さを奪い、かえって害となると説きます。だから上記の単語はkun|ven|ej|o, kun|veni, kun|ven|ig|i, のあとにkun|ven|oとアルファベット順の独立した見出し語として並ぶのです。

2年前、「エスペラント日本語辞書」がJEIから発売されました。ここでは語根中心の配列法を取りながら、その弊をすこしでも減らそうと、おもな合成語が「カラ見出し」として掲載されています。編集会議の結論を反映したものです。それでも言語学者の田中克彦氏によれば、語根中心主義の配列は、初学者の学習意欲を削ぎ、エスペラント普及のためには誤りだったとのこと。単語の意味や用法についての豊富で的確な情報は「学習辞典」をめざす本辞典の特色ですが、「引きやすさ」という利便性が持つ意義をひょっとしたら軽視したのではないか、と思われてなりません。たしかに「愛のムチ」も効果を上げます。しかし学習者としては、未知の単語をとりあえず一秒でも早く検索したい、というのがいつわらない本音で

す。田中氏の批判を無視できないゆえんです。

すべての語彙をアルファベット順に見出し語として掲げた辞書は、ほかに1974年モスクワで出たE. A. バカリョーフ著「Esperanta-Rusa vortaro」があります。この二種の辞書が採用した方式はもっと入念に考察し、評価しておくべきであった、とくやまれます。「エスペラント日本語辞書」の編集に携わった一員の小生は、誰かさんから大目玉を食らってもいいから、三宅小辞典の改訂版を手がけてくれる方はいないだろうか、と最近しきりに考えているところです。

## Mia opinio pri Esperanto-Movado

Han-Yi



En la jaro 1980, pli ol 400,000 ĉinoj estis lernantaj Esperanton en diversaj Esperanto-kursoj. Estis pli ol 40 universitatoj, kiuj funkciigis nedevigan Esperanto-lecionon. Multaj Esperantaj organizoj estis viglaj en deversaj provincoj, urboj, eĉ vilaĝoj. Novaj gazetoj kaj ĵurnaloj aperis ŝajne al ni kiel postpluvaj bambuidoĵoj en printempo.

Tamen bedaŭrinde, post la jaro 2000 pli kaj pli ĉinaj esperantistoj deflankiĝis de la movado. Multaj gazetoj Esperantaj estas perditaj, eĉ la gazeto EL POPOLA ĈINIO, la plej fama, historia kaj belega gazeto en la mondo. Tio dolorigas la koron de ĉinaj kaj multaj eksterlandaj esperantistoj. Mi opinias, ke pro la ĉiam pli da disvastiĝo de la angla lingvo Esperanto-movado estas ŝrumpanta en Ĉinio.. Kial? Ĉar per la angla lingvo oni povas doni posteniĝon kaj enoficiĝon al tiu, kiu havas forton de altiro eĉ por ĉinaj junuloj. Jen estas realeco.

Ĉu vere malaperos Esperanto-movado en Ĉinio? Ne! Ankaŭ kelkaj organizoj provincaj aktivas en diversaj lokoj. La ĉina radio internacia disaŭdigas ĉiutage. La ret-gazeto EL POPOLA ĈINIO bone iras. Ankaŭ funkcias nedeviga leciono de Esperanto en 17 universitatoj. Precipe en LiaoNing-Universitato, la studentoj povas akiri al si la lerno-poentojn. Tio spronas la lerno-intereson ĉe junuloj. Laŭ statistiko ankoraŭ estas 10,000 ĉinoj, kiuj disponigas, uzas aŭ lernas Esperanton. La nombro estas pli granda ol antaŭ la jaro 1979. En Ĉinio oni havas proverbon: “Sola fajrero povas bruligi tutan stepon”. Tiu popola saĝo profunde subtenas la ĉinan Esperanto-movadon. Mi venis al la firma konvinko, ke certe revigliĝos Esperanto-movado en Ĉinio. Estas bezonate klopodi sen limo per korpo kaj animo de ĉinaj esperantistoj. Ĉinoj ofte diras, ke la vojo estas zigzaga, tamen estonteco estos serena!

# La Sonorilo de Nagasaki

(Nagasaki no Kane)

poez. SATÔ Hatirô  
muz. KOSEKI Yûzi  
trad. KONISI Gaku

Andante



1) La - zu - ras la ĉi - e - lo kla - re - kun fa - vor',  
2) For - i - ris jam ĉi - e - len ka - ra - la e - dzin',  
3) Kon - fe - sis mi la kul - pon mi - an - en la kor',



sed ta - men ne se - re - nas mi - a tris - ta kor'. Dum sku - as nin —  
ŝi i - ris so - la al - vo - ki - te de l' Kre - int'. Post - res - tas nur —  
dum he - lis lu - no kla - ra en ves - pe - ra hor'. Kaj vi - das mi —



— kru - e - la ond' mal - var - ma de l' ho - ma mond',  
— la ro - za - li' por re - me - mo - ro pri ŝi.  
— sur la - ko - lon' eĉ de mo - des - ta la dom'



jen flo - roj flo - ras bra - ve sur her - be - ja - vast'.  
Ĝin mi - aj lar - moj ro - saj trem - pas kun do - lor'.  
la bil - don de Ma - ri - a, sank - ta Di - pa - trin'.



Jen ku - ra - ĝi - ge, jen porkon - sol' so nas be - la so - no - ril'. A,



a, — la so - no - ri - lo de ka - ra Na - ga - sa - ki. —

## 第59回東海エスぺラント大会のご案内

今年の東海大会は大府駅からバスで12分の「あいち健康プラザ」で、健康とエスぺラントをテーマに行います。主催は東海エスぺラント連盟。企画や開催の担当は磯部晃、後藤好美、山田義、前田可一、後援は名古屋エスぺラントセンターです。

講師は名古屋市南保健所で環境衛生監視員として活躍している湯浅典久さんに「住まいの衛生」というテーマで話していただきます。湯浅さんは名古屋エスぺラントセンターの会員です。

プログラムは、Kantado、緑星旗の凧揚げ、施設内自然探索などを予定し、土曜日の夕食会はゆっくり懇談のときにします、その後は部屋で恒例の Paradizo。飲み物を用意して友好を暖めます。名古屋エスぺラントセンターからエスぺラントの初心者にも役立つ辞書や教科書、専門書やCDなどを並べます。

会場は「健康宿泊館」2Fの会議室1（40名収容）を使い、夕食会は3Fの「サルーテ」を予定しています。宿泊しない方も夕食会（予約が必要）に参加でき、温泉も利用できます。会場は広い「あいち健康の森」の中にある分かりやすい大きな施設です。大会の開始前、終了後には健康ゾーンや散歩コースを一回りされるといいでしょう。

日 時 2010-05-22（土）午後1時受付、2時開会～23（日）11時半閉会  
場 所 愛知県東浦町「あいち健康プラザ」あいち健康の森健康科学総合センター会議室  
会 費（当日お支払いください）  
一般参加 2,000円  
障害者 1,500円  
家族 800円  
宿 泊 22日(土) 8,800円（夕食・朝食・温泉込み）。宿泊は20名まで先着順で締切ります  
（宿泊者以外の利用）朝食 1,050円 夕食 2,800円 温泉 600円

申込み先・問合せ先は、電話0568-61-2801（後藤）、ファックス 0568-61-9117（後藤）、484-0079 犬山市木津北ノ畑53 後藤好美、メール：[yamadapiano@mac.com](mailto:yamadapiano@mac.com)（山田）

申込みは5月10日までに次の項目をお知らせください。

★ 郵便番号 \_\_\_\_\_

★ 住所 \_\_\_\_\_

★ 氏名 \_\_\_\_\_

★ 電話番号 \_\_\_\_\_

★ メールアドレス \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

大会に参加（一般 (2,000円) 障害者 (1,500円) 家族 (800円)）

宿泊 (8,800円)

夕食会 (2,800円)

費用は当日受付でお支払いください

## iPhoneとエスペラント

山田 義

iPhone というケイタイは電話だけでなく、メールもインターネットの検索もできる。録音や撮影機能があり、地図ナビゲーションもある。エスペラントの旅行にも使ったし、エスペラントの電子書籍も読むことができる。

2009年のポーランドでのUKでも iPhone が役立った。

「連絡先」にはエストニアの友人のケイタイ番号を旅行の前に入力しておいた。テレビ電話のスカイプで話しながらケイタイ番号をダイヤルして呼び出しができることを確認した。実際にはUK会場で会うことができたので電話をかける事態は起きなかった。時差のある日本の家族へ電話することもなかった。通信料金を心配して「機内モード」をオンにして、事情を知らないまま日本でこの電話にかけてもつながらないようにした。家族との連絡にはメールで用が立った。

「メール」機能は役立った。いつも家で使っているパソコンのアドレスと iPhone のそれが共有しているので都会ならどこにいても WiFi が接続すれば日常的なメールが入ってくる。もちろん、家族からも日本語のままやり取りができる。（以前外国の図書館でパソコンを借りて家族に書いたがそこでは日本語が打てなくローマ字で書いた覚えがある。）大会後にフィンランドを観光するという旅程を組んでいた。大会の中でヘルシンキの若いエスペランティストに新しく出会うことができ、ヘルシンキで再会しようと言うことになった。メールアドレスや電話番号を交換した。すでにヘルシンキで仕事を再開した彼とメールで連絡を取った。

行程を毎日メールで家族に書き送ったので、地名や人名を現地で記録できた。「メモ」と「カメラ」では新しく出会った人の名前や顔を記録した。

「ボイスメモ」はモノラルの録音機のだが、実際には使わなかった。

「写真」には自分で撮った日本の風景、家族の写真などを400枚ほどを収めておいたので、再会した友人に見せることができた。そんなとき彼女もバッグから写真を取り出して見せてくれたりして話がはずんだ。バスの遠足日などのレストランで食事が出てくるまでの

退屈な時間には隣の人に iPhone で写真を見せた。男性は写真そのものよりその操作性に興味を示すが、女性はすなおに写真の中の孫たちに見入って喜んでくれた。

Google の「マップ」には、大会案内書からあらかじめ会場やホテルの位置を特定して旗印を立てておいた。PostKongreso の観光の城やバスの発着場などもできるだけ印を入れておいた。今立っている場所からホテルまでの道順経路を検索できる。これは、出かける前から実際の町の中で「マップ」を日本でも使い慣れていないと距離感をつかみづらい。見学に入った小さな資料館などではその場で現在地を地図上に記録し帰国してから行程を振り返るのに役立った。



「カレンダー」には大会のプログラムなどを書き込んだり、大会のホームページからダウンロードして観光案内のエスペラント文をそのまま日程に合わせて取り込んでおいた。ホテルの名前や所在地電話番号なども。

「時計」には日本時間のほかに行く先々の現地時間を設定しておいた。首都などの地名で設定するので、夏時間などがあっても時計を調整し直す必要はなかった。

「計算機」は免税店などで通貨の計算に役立った。

「研究社中辞典」（新英和中辞典+和英中辞典）を開いて空港などで看板の意味を確認したり、引いた単語は発音を聴くことができるので、ものを尋ねるときに利用した。

その他、旅行に関係のない利用ではパソコンで作った楽譜などを jpg 形式で iPhone に送っておくと楽譜が読める。今は、一般に販売されている電子書籍にエスペラント版がどれだけあるのか気にかかる。

ネットでエスペラントのページを開いてオンライン辞書も利用できる。パソコン上で音楽ソフト iTunes を使って好きなエスペラントのCDや、Podcast で放送中のエスペラントのラジオ番組などを取り込んでおけば電車の中でも聴ける。

まだごく少ないが、エスペラントの電子書籍のアプリケーションを無料または有料で取り込める。電子版学習書や辞書などがある。"Esperanto Dictionary" というのを見つけたので取り込んでみた。ここには“Esp-Eng”というボタンと“Esp-Kor”というボタンがある。ハングル文字が出てくる、韓国で開発されているソフトのようだ。

待望の iPhone で使えるエスペラント日本語の電子辞書を開発している人がいるとのことであり、期待している。引くだけでなく、使う人がその単語に書き込みができればいいと思う。Havano:【地名】ハバナ（キューバの首都）という項目のメモらんには“75-a UK 1990”、“95-a UK 2010”などと書き込みたい。

電子書籍“Esperanto Bible”¥350はエスペラントに訳された聖書を創世記からヨハネ黙示録まで iPhone 上で読める。聖書の巻、章を探しやすくなっている。節の番号は小文字で色がついているので章節を探しやすい。本文のフォントや、サイズも自分で好きなものを設定に変更できる、紙と文字の色も多数の中から選べる本格的な電子書籍である。

この電子書籍“Esperanto Bible”の本文は書籍版 La Sankta Biblio のザメンホフ訳の旧約39巻と委員会訳の27巻が使っており、2006年 Kava-Pech 発行の BIBLIO に収録されているトビト記などの「旧約聖書続編」“La Duakanonaj Libroj”は含んでいない。

iPhone で読める日本語の電子聖書も数種類あるが、電子書籍『モビリス聖書 新共同訳』¥3,000 は日本聖書協会の新共同訳を本文としており、検索方法なども充実しており優れた電子出版物である。

iPhone エスペラント-日本語辞典の出現を期待している。



## 面白いサイト エスペラントを使ったサイトをいくつか紹介します。

Gao Mingsi

<http://www.liberafolio.org/>

“libera folio” --- Sendependa Movada Bultenoのサブタイトルが示すように、エスペラント運動を対象としたニュース・討論サイト。2003年に Istvan Ertr (ハンガリー人) Kalle Kniivilä (スウェーデン人) が開設。独自の取材網を通して得られた記事はすべて sobre kaj kritike (冷静かつ批判的に) のモットーに貫かれています。討論では、30~40名の常連による熱を帯びた意見の応酬が見ものです。韓義 (Han Yi) 氏の投稿にあるように、中国ばかりか日本を含め、全世界でエスペラント運動が退潮しているいま、厳しい状況に置かれたエスペラントを根本から問い直そうとする真摯な試みのひとつがここにある、といえましょう。



<http://www.eventeo.net/web>

エスペラントを使った一般報道サイトです。カバーする範囲は南北アメリカ・欧州・中東・アジア。太平洋と全世界にまたがりま。編集者の名前はわかりませんが、単なるニュースの寄せ集めでないところから、見識のある人物ないしグループが運営していると思われま。時間単位で示されるアクセス数はその都度40~400。これを少ないと見るか多いと見るか？



<http://esperanto.cri.cn/>

言わずと知れた「中国国際放送」。昔は「北京放送」と称していました。ラジオで受信しなければならなかった頃は、時間に制約されました。いまはパソコンでどんなときにも聞けるし、音質も一定して優れています。エスペラント班では20名近くの専従職員が働いているとのこと。国家がエスペラントにこれほど力を入れているのはほかに例を見ません。中国政府の自画自賛番組にすぎないと毛嫌いするのはご自由ですが、一方的な宣伝のなかにも興味をそそる事実がかくれているものです。



### ハイチのエスペランティストを支援するには

エスペラントのサイト libera folio が伝えるところでは、このたびのハイチ大地震の二週間後によく、UEA のデレギート Christine Theano さんの生存が確認されたという。彼女は、多く家族と家と職場を失ったものの、自身は生存していることが、友人でコロンビアのエスペランティスト Rubén Torres の訪問によって確認された。トレス氏は、エスペランティストに支援を働きかけている。

ルベーン・トレス氏は船員で、かつて船が名古屋に寄港したおり、センターを訪れ、わたしや河合さんなどと交流したことがある。日本のエスペランティストでも手軽にできることは、ハイチのエスペランティストの災害復興支援のための UEA の Espero-Haitio 基金に寄付金を送金するか、ハイチの運動全般を支援するための Amerika Komisiono-Haitio 基金に送金することである。(猪飼吉計)

【編集後記・山田義】今号では、北京大会で出会った中国の友人が寄稿してくれました。彼の名前は Han Yi、漢字で書くと韓義だということで私と同じ名前ということもあり親しくなり、頤和園 (いっえん) を案内してもらった人です。今年の長崎日本大会にちなんで、「長崎の鐘」を小西岳さんが訳詞しました。La Sonorilo de Nagasaki を10月の長崎の日本大会でみんなで歌いませんか。